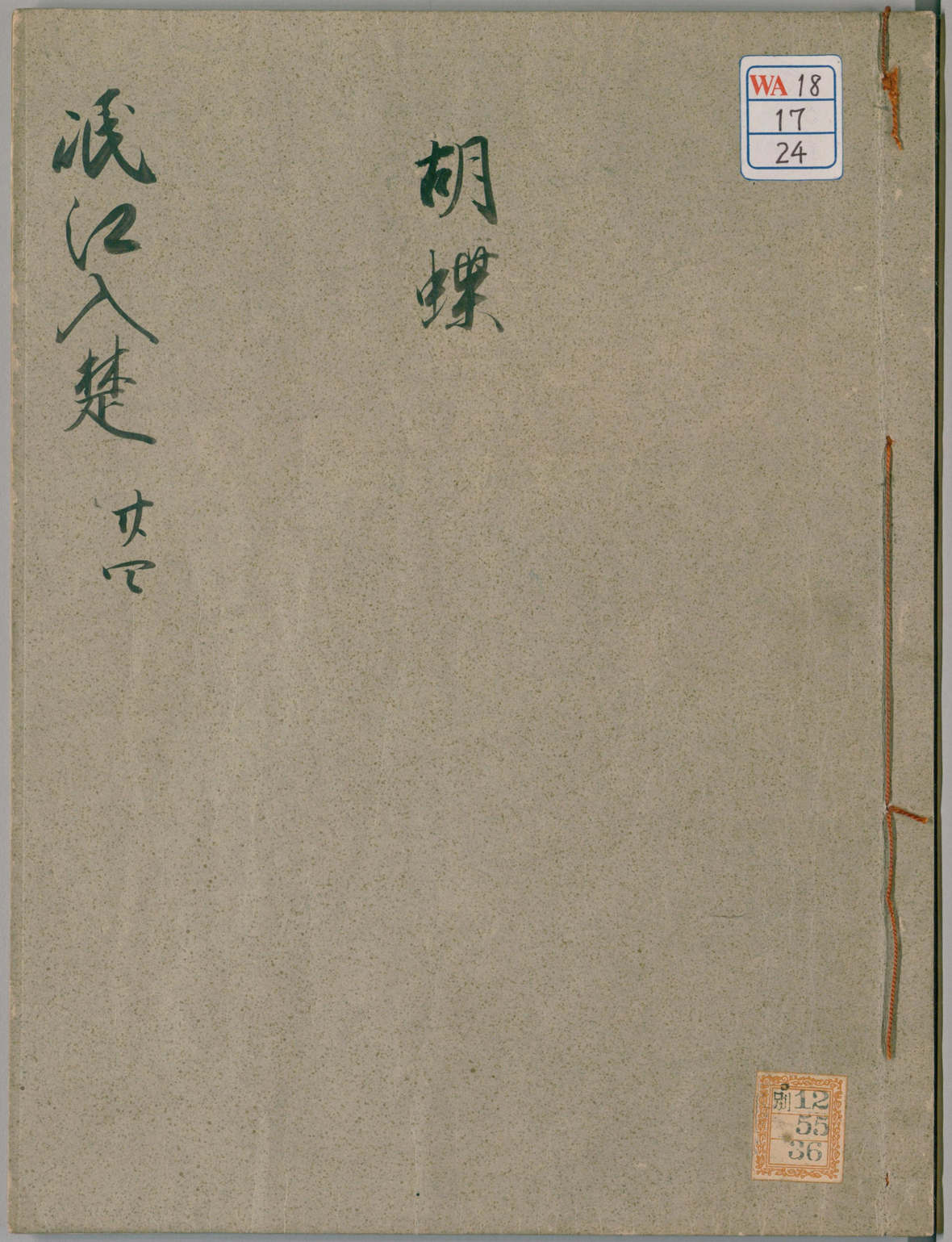
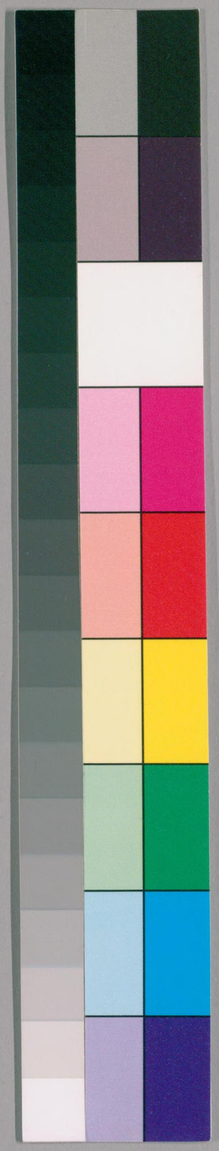


WA 18
17
24

別 12
55
36



国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用

胡蝶

胡蝶　玉鬘並二　花以詞并歌為巻名

可笑ゝ名ごて（秋好中宮方也）にてさせ給ふよしいはりて八重山吹をつらねさせ給ひ

（紫上也）（堂上方也）花園のこ蝶をさへや下草に秋まつむしはうとくみるらん

私詞には蝶といひたれど胡蝶とつゞけたり勿論なし

中務卿宮同年事也但此巻は三月の比よりの事也又玉鬘の並也

玉ゝ　玉かつらの並蝶にまつはし若紫源氏卅六之御年をさして

物うちとつれの御年也

やよひの廿日あまりのころほひ

ありけくしくして

（秘）新造の舟とゆかれたる也　（哀月）

ほゝゆかしくいまくちとめやと

（むし）みの里にてもりもやかにかりきぬやとうまくちこちかけい

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17

ガラス使用

俄頃童子語曰汝来已久何速不去質應声而起柯已爛尽

集 梁ノ述異記曰信安郡石室中ニ晋時ニ樵者王質逢二童子ニ碁
与質ニ一物如棗核含之不覺飢置斧於坐而觀ル童子曰汝斧柯
爛質帰ル郷閭ニ無復時人 出述異記

風ふけは浪の花さへ色みえてこやなにたてる山ふきのさき

新 此うたハ中ニも近江の国の名所の人々の云し
秘 新古今 俊頼 ハ 作者ハ俊頼と云へし
河 此の花の名ハ ちるをなげく 水のそこにハ風やなからん 井手
山ふきのさきハ一説ニ近江ニ非ス只山吹の咲の
あたりの名也
それより山吹のさきをいへるとこそ 蛙の歌ニ いひて井手の山吹
山吹のさきを名所とし 古説にハ近江の名所見えたり
秘 されハ此うたハよくしれる

こともやいそのことくかくらへとかたふきの ゆかんとうへのけらひける
井手ハ山吹の名所なれハ山ふきのきれいなくて井手のいへり
花の名の山ともおもへかしたもの中にとをいちはやき つくる人
河 蓬萊山ハ鰲亀背也
白氏文集 不見蓬萊不敢歸 童男丱女舟中老
秘 白氏文集の句をひくにハ 蓬萊の葉ハ此のとなりに有と
覚蓬萊哉とし

集 私勘 蓬萊事 鰲亀背ノ事ハ列子ヨリ出タリ
列子湯問篇曰湯又問物有巨細乎有脩短乎有同異
乎革曰渤海之東不知幾億萬里有大壑焉實惟無底之
谷其下無底名曰歸墟八紘九野之水天漢之流莫不注之而無增
無減焉其中有五山焉一曰岱輿二曰員嶠三曰方壺四曰瀛洲五曰
蓬萊其山高下周旋三萬里其頂平處九千里山之中間相去
七萬里以為鄰居焉其上臺觀皆金玉其上禽獸皆純縞珠玕之
樹皆叢生華實皆有滋味食之皆不老不死所居之人皆仙
聖之種一日一夕飛相往來者不可數焉而五山之根無所連箸

常随潮汐上下往還不降將淹
恐流於西極失辭再三乖命
之遂為三里高六十丈馬上吟詩而已

春のゆめ　ここにてわかれ　てしるうらうら
眼前の童氣　うらうらうら

桃源　ゆき
續奇詩記曰漢中南水手刻賜有劉農流竄二人共
入天台山採迷道絕粮晝山人子女一桃樹共取食之
山深洞水飲之並各澡洗行一里又度一山溪見二女顏容
卅絶便喚劉阮姓名有旧交歡悦因向帝等来行晩也因
邀過家廳都亦男児又有数仙女客至設家来慶設酒
樂宴歌詞劉阮就衽處如宿言語切美行夫婦之道住十日
日求還女曰今来至此宿福不淺何得久住半年天氣恒如二三月來去切女曰罪根不滅使
君送劉阮還家每相識御宴悦異乃歴七世之孫也

劉晨阮肇　天台見二女　一作仙女
行于桃下取于食之　一作食
下仙女送至家已七世之孫　一作孫
私云此事文選注引之

皇慶　平調物名等　遊声一帖序共斷　破三帖　物名等十帖序十五
性料　三皮物名急物名其外彈
有天平廿年帝朝臣物師安曇連等

平調乃曲
私云此曲用平調而調子
調子相同但此曲用黄鐘調子
也平調用律呂相應而用
黄鐘調子之平調用双調子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かふりつゝそゝきまれる
らまれる又いふ雪とけるま
（朱）松う卅初のほこもり時をかぐやま表紙も卅初も）
処原 松葉うゑ来忘ツトめ年ぐ
うらしをなけつゝやとこのそいふの行
松 卅をとこゝろてみとしいつるほの
き学院きあらしをなくへこゝとり
みうへはるのつゝれきうしいあるんを
そうしそゝ 霞ゆく
えこゝもあれれそて 頃
けさのれあるこゝ
松う卅机まれ新年そゝうれ
そうゝいのうつゝの翌朝心卅日まえ
めしとう堂とうをを蛙とはうそ
九処へ住れしまをうの
ふゝ中文のつぐうこやうみりつのりそ
うう

河 李朝月令二月う 同史こ六平年九月平成中宮話賀二百
人今讀大般若経是遊龍元 遣りも代
年中行事松卅う
春中後経会 四ケ日二月或三月日時僧名定
文副 左右兵衛督堅義吏各着
諸院中後経事 四ケ年二日有行茶ナ三日有法会
根元卅う春中後経二月八月お禁中
門堂こて僧し等と賜しまあり二百
九ケ日こ後しやう七日こ後しナ二日
松 二月つ廻りまて二六月こてあり
こゝもし
松勘 年中行事松卅う
春中後経会 四ケ日二月或三月日時僧名定
文副 左右兵衛督堅義吏各着
諸院中後経事 四ケ年二日有行茶ナ三日有法会
根元卅う春中後経二月八月お禁中
門堂こて僧し等と賜しまあり二百
九ケ日こ後しやう七日こ後しナ二日
松 二月つ廻りまて二六月こてあり
こゝもし

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

上卿奉仰着陣仰令陰陽寮勘申日時 教願日時 又弁令
進例文硯 史二人 例文置上 進ム 例文本無之時ハ
僧名ノ上ニ押紙古今 年下ニ注之 僧名 硯 置参議着陣ノ
若先有他参議 并後飯ノ上ニ 机等
或令弁定ラシ例
惣百人
僧綱 大威儀師 百帛 威儀各二人 百僧ハ二合已講
諸寺
東大寺 學侶等 若八人ハ中ニ六人油住
下ノ人倫時 次第各一人
元興寺 大安寺 各一人 弘福寺 各一人 飛鳥寺 各二人 法隆寺 各二人 従寺ノ例
西大寺 法隆寺 各二人
法隆寺 六 東寺
近江国分寺 八人 次第 東大寺
梵釋寺 崇福寺
興福寺 嘉祥寺 極楽寺
四天王寺 飛鳥寺 廣隆寺 仁和寺
法住寺 元興寺 四天王寺 法勝寺 四大寺
法成寺

尊勝寺 已上各一人但随僧綱
定畢 副日時 勘文 若参学 并勘文人
次治日時 依勅申 史撤 若文上ヘテ
由弁申請奏 若敢上弁有 即付弁令奏 後日史書僧名奉下ス左弁官ニ
事上ヘテ左右大弁 行事弁 ハ上ヘ加署ヲ
季御読経
當日上卿以下着陣ス弁記問 誦 問僧参否 陽書堂ニ参ル南廂ノ
問僧参否次第作定申 若僧 定畢
如但弁説記取見参僧堪仮 若ハ
令奏人着敢上弁奏入 若退下 弁
橋鐘 仲鐘 若以下 若以下 右近衛
次第ニ列テ左陣ニ 次第ニ 若以下 右近衛
仮布敢 次ヲシテ左右ニ 若以下 右近衛
有人 并 有人 并 南廂ノ後ニ 若以下 南敢
次第ニ参入 若以下 各一人着 布敢 次僧侶
一人威儀師 門ニ 若以下 自余僧
単西階ニ 威儀師 乗ス 僧ニ 従テ 着ク

後儀即若南殿亡可奉仕兇額、導師ニ僧綱已講有識僧ヲ令減後儀ノ如シ例上卿令奏事由遣ス或有非職僧奉仕導師ノ例

導師着 後僧先發庭具置香煙筥 **請僧慇ニ礼三度** 依後儀堂童子着座 **唄ニ帀** 打磬ヲ合ス 僧行道畢唄 **散花僧** 左兩ニ 門内倒 圖書寮浄衣ヲ例ノ外兩僧差宣陽門校ヲ壇上 入自中央間 **居布施堂童子昇** 用布施ヲ 行道畢唄 堂童子昇ノ 散花畢退次ノ如ク 導師 **願趣** 座ヲ降ル 経机ヲ 後堂ニ 入自中央間 先ヲ 長八ニ天慶ニ 奉ヲ 後堂ニ 退ル 次ニ 布施ヲ 取ル 次ニ 唱ヲ 導師 **呪願** 出自 着 後僧ヲ 發庭具 後導師ノ 一人 左ニ 礼ヲ 東ニ 庭ヲ 退ル 僧ヲ 左ニ 礼ヲ 西ニ 庭ヲ 退ル 次ニ 導師 **諷経** 文

西宮時ヨリ**少**後経上ニ依**作**ヲ陣定ニ僧名ヲ令勘日時ヲ**定**ム**随時**ニ**召**ス**請**ス**僧**ヲ**慇**ヲ進**物**ノ**捧**ヲ**文**ヲ**差下**ス**外史**ヲ**僧**ヲ及ヒ**内**ニ**作物**ヲ**充**ル**事**ヲ**行**ス**事**ヲ**次**ニ**内**ニ**奏**ス**事**ヲ**定**ム**行事**ノ**上**達部ヲ**慰労**ス**事**ヲ**定**ム**時**ニ**撤**ス**屏**ヲ**座**ヲ**繁**ヲ**置**ク**物**ヲ**移**ス**事**ヲ**殿**ニ**仏**ヲ**安**ス**導師**ノ**帳**ヲ**中**ニ**施**ス**事**ヲ**布**ク**設**ケ**僧**ヲ**慇**ヲ**退**ス**事**ヲ**敷**ク**僧**ヲ**座**ヲ

、南庭ニ**東西**ニ**安**ク**僧**ヲ**座**ヲ**小**ク**浄**ヲ**畳**ヲ**下**ス**懐**ニ**儀**ノ**如**シ**導師**ノ**座**ヲ**前**ニ**同**ク**行事**ノ**座**ヲ**堂童子**ノ**座**ヲ**殿**ノ**上**ニ**敷**ク**

出ヲ**奉上**ヲ**奉上** 法用ノ次ニ 作ノ願ヲ **行香** 時ニ**東**ノ**庭**ニ**僧**ヲ**不**ス**二僧**ヲ**西**ノ**庭**ニ**僧**ヲ**兼香**ヲ**堂童子**ヲ**押**ス**如**シ**西**ノ**庭**ニ**出**ヲ**奉**ル**事**ヲ**用**ヒ**不**ス**如**シ**出**ヲ**奉**ル**事**ヲ**六位**ノ**史**ヲ**二**ヒ**人**ヲ**或**ス

天慶ノ**こすゝ**ノ**御**ノ**仁**ノ**分**ノ**成**ノ**有**ノ**時**ノ**口**ノ**宣**ノ**旨**ヲ**以**テ**作**ヲ**渡**ス**殿**ノ**小**ノ**上**ノ**東面**ニ**出**ヲ**居**ヘ**殿**ノ**縁**ノ**西一間**ニ**延長**ノ**二**ノ**年**ノ**三**ノ**月**ノ**廿**ノ**六**ノ**日**ノ**有**ノ**少**ノ**後**ノ**経**ノ**事**ノ**花人**ノ**行事**ノ**事**ノ**如**ノ**少**ノ**後**ノ**経**ノ**

仁ノ**和**ノ**二**ノ**年**ノ**三**ノ**月**ノ**廿**ノ**七**ノ**日**ノ**作**ヲ**以**テ**奏**シ**令**ノ**事**ヲ**欲**ス**勅**ノ**少**ノ**後**ノ**経**ノ**日**ノ**付**ノ**左**ノ**弁**ノ**官**ノ**下**ノ**文**ノ**

仁ノ**和**ノ**二**ノ**年**ノ**三**ノ**月**ノ**廿**ノ**日**ノ**清**ノ**行**ノ**少**ノ**後**ノ**経**ノ**

十六日庚子大内ニ**令**作**忠**ノ**事**ヲ**奉**ル**数**ノ**僧**ノ**名**

天慶ノ**九**ノ**二**ノ**七**ノ**陳**ノ**時**ノ**少**ノ**後**ノ**経**ノ**法**ノ**成**ノ**僧**ノ**数**ノ**而**ノ**已**ノ**外**ノ**之**ノ**有**ノ**威**ノ**儀**ノ**花人**ノ**作**ノ**

為ノ**令**ノ**撃**ノ**鐘**ノ**事**ノ**威**ノ**儀**ノ**僧**ノ**数**ノ**并**ノ**史**ノ**付**ノ**事**ノ**之**ノ**後**ノ**左**ノ**兵**ノ**次**ノ**第**ノ

院ノ**必**ノ**依**ノ**継**ノ**例**ノ**記**

康平ノ**元**ノ**年**ノ**十**ノ**九**ノ**東**ノ**部**ノ**記**ヲ 三ノ 法ノ**会**ノ**僧**ノ**数**ノ**

二ノ**十**ノ**日**ノ**廿**ノ**六**ノ**日**ノ**作**ノ**僧**ノ**名**ノ**帳**ノ**院**ノ**御**ノ**幸**ノ**敷**ノ**殿**ノ**陣**ノ**次**ノ**清**ノ**涼**ノ

国立国会図書館　タイトル『峴江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

小師記云、讀經時、打鐘事、二季正月行事、并修正月、
晨朝時有之、二季、二季時、其例不定、
晨朝時有之、
正安四六十東大寺塔上生木悦云々
八月八日宣旨云、尚寺中、淨行僧、
同被大佛并燈油、
可運送云々、下知大和国、
又、
又、従十一日、於法勝殿七ヶ日令供
寛弘二九十九、被定法勝殿供大般若、
長保三年二月九日来、別従大佛身水湧出、
今神祇官勘申、非故不問、
容申、故不出有大事云々、
寺有宿老僧、
般若經令有冥感、但供新用手供物、
長二一月廿一日、大宰府言上、
應和元年八月三日、筑前人内藏宅人被殺、
寺領註、
天暦三、十、三、記、
先入解、
私云、
ゆくえ
緋
法
布
刀
夜

秘 吟のこころくしあてみとのくし
秘 つくりそくそいひ実のえし
やさとてくだりのしうはもを
元 妻屋のもし
秘 楼うれ妹あり往し妻屋あるくう
おもくしあるからうを
む 為方此やつ乃扇をたれ妻屋にうる
あるうるをめしるを
は 幌等 狂姫絹し幌布し
む 胡床をとりおしてあるこころり妻
辛 別床をうにうけいうるくし
秘 あるく 元ノ統一ニ
わるくも 秘 蝶鳥の八人し
ぎやうぐうの人く
は 紗香 第ホセ 唐ニハ丁子香ヲ行フ

その心さして仏これをまる
秘 ぜんこのこころいはれをしうみし
こうてよこはうそをこけ
秘 そ別来人しかけの歩しに蝶をる
辛 その法し生うをあうえ就りうるるるの別当蝶の雑人
なうくうた一動うてり幻当蝶のえ
そしいきうれのえ文しはうくをはう
は 法會儀蝶鳥供えて定まし池(鳥ノ来)頻(伽陵)蝶菩薩或ハ迦陵頻菩薩 楽伎
えこれれ経年まと到堰下授えお倩み定者二人(取次人意)

金銀事

金未まを中宇向封馬回は献白銀
雪許まを中宇向淫奥回は(進)雪人をの一りを
元 えるる表えのえし出いうりて、
出えいうりえしあるをの初しあ
いうりう は 砲 丁長
みるうのおよのらるいうり

蝶の事

鳥 壹越調 序拍子八 破拍子八 急拍子八 古今中曲

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17

ガラス使用

又艸堆の蚤し泌の堆しをもとめ
えみすけをいめ　秘
中えみすけ心　元
やぐしたぶ
れてしうろくろ　秘
も　楫ら吹のえうりて用てし　楫馬の毒し
志ろくこれ
ほ白細長さうし楫やりろふりとりる
とい工幻を異しくし
寺　まめのくや　一勅合豆
秘　さやくし
ちばく
ほ　暗美　正　正徹　ホノ表徹也　なれノ給し
也　正徹とさざくよい暗
秘　新ありあり
ゆおえとみうみりろふくて

おれほうくい裳うきめすとしそ
わうそうけるエいし
寺　やれ繁生ごい裳くさめうるうろ
ゆろう　まえれウぬうし
ほうくてわうんのくくしくら
ほれ　ほうろのくろのろて等のわしやし
秘　ほうのうるこのゆうりうけつ
寺　ほうのくねのー
也　竹ゆうま
ほ　ろうしほうるまいありていう
ほ　ろうしのくろのろて等のわしやし
秘　ほうのうるこのゆうりうけつ
寺　ほうのくねのー
ほ　よの約と布ヤやいうまくいろてて
ほうてくろれとみをろれろ
てほそら吹をつくてもせいさ
寺　つろいわうやいわりてつ
秘　いありてつくてれうとそ今いけうろ

きこたまふ人
秘 まかりを念ずる人なかりし
なかりきてなりけるに人てきことあれ
謝（?）奈るまかりへあしとい定めこ源のなかりを
なかりとおもひしに
秘 ひうわなれしいれわりてし
弁 高（?）道のやうしされいまとのかなにまうをやせましと
そねもとし
秘 ゆくし
こゝのをはすうけらく
秘 まかり此方へいつきて久しくしりまいまに寛に先井のあれ
らうとしなき
いのおもひとのてをらい
秘 相（?）すとしこれい寛の先井みれにあきにもかいうりなき
このあて
弁 名（?）をまりてもちをていまきとしなき
このこのあそれにいあてかしいなりしくうすん雅光になりしなき

洞 ゆくさまうあれ いまきこえにみなるうちまう光まのことは 寛父
おくれ源の先井なれいまてかくろしくかなりもとし
む まうてみたいゆのる源の光達を我ほいとまうるうえ我を
きこいとしそのそのあやにおりて下にやうしくおり済て
いうあてもなれい用しむかうとまてとおしとさかうしきとまし
弁 まうて光とりあゆを敏するうすて光井のハトてうなさ
秘 むこり
まとのなやと
む ゆくにもいふし　むといかなしくいのえわとあり
さやはりなし
秘 光の歌を逢まうとふかしをに源にとし源のゆくしえよ縦江
ひとくてしうなき
秘 源とひとてにいのとまえ中し
いとくさらるいてれいて光の
秘 久喜（?）と仰ふかとしいたきれまし
これいなりてなかてありぬ　何　木日中比　才学日　廬

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

これ云々のいまだ
云々のいまだ
秘 十月云々十月云々乱和又ばや
たゞのみこと
秘 西村しるし
ゐたりしことゝゐたり
秘 もゝそのくにゝことゝよみあらし
ゝのこと
ゝしてまゐらう
ゝれもしうゝれを
に 公れし
ゝゝうつゝゝ
秘 ゐてゝゝ汝の蓮枝とゝゐ
いゐゝゝぬゝのゐゝゝ
まゐて公のゝとゝゐゝゝゐ
弁 ゐてゝと汝と生さゝゐ

すうし出あん
秘 ゐてゝゐを汝ゐてゝ詠ゐ
ゝれ心をいゝしゝゝれ
はゝまゝくのゝゐゝゝも
たゝれてゝまゝゝ
秘 賢足しゝゐゝゝゝ
忘れゐゝゝれゐゝ
汝 孔子仆何事ぞ不高論浩長沮桀溺丈人石門荷蕢儀封
人楚狂接輿ゝれみをあゝゝゐ
のゐ一返て云々のゐ児ゐゐて
を云一云遇と云て小児曰吾
云々汝古ゐ人ゝ事ゐ汝し城を
尚手ゝゐ下ゐ学ゐれ仆と
人の迹ゐゝゝ迷ふ孔子仆に
物下走中庭路下孔子
ゝゝゐゐ当のゐゝゐゐ

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17

ガラス使用

倒れ略しょう

岷さんこうこぶてとも

に見る　或本みしをこう

むかつのそつこかめ房みえし

秘花もこう　第三秘花二月位まつりそ

いそらくそうふ

秘　源の初

そてこんと　秘人の族姓をうあ

源の柳本ていうこと清定のうう

のうえ柳本まのかうくうしい

けうかしいとしいまうくいし

柳本に氏族伝録の気うう注

はあうつ初し

をのうこうあこと

む柳本かのこれまていうこと見来

けこうあれこと好をいやまうこと

秘　源のむうやと

うふにやうと

源のむうにのう初し

やうとめやんとやいまうことを

はやいまうこいやまうし秘日

秘　本にて事こと行うやう

いやまうこと

守むうれいしやうくうくうと

みやてうれ

むうのえりしのすし

やうこいうこうりこと

むうれこと源のうえいうこと

ふねてれいめ初のあうう

秘　寛はし

第三生う

秋日

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17

ガラス使用

さくらうち行つゝ
秘文みくしけるとに徳舟み守ふれ
仇世のふのあるうゝし
もゝそゝみそしうとうて仇宝仏
れ守うゝし
琴三うゝうゝふの宝にての守ふてとゝ
秘非ふそれふれ死うゝふの宝にすゝ
ゝつうとゝ
えにたうりのれやうみれゞ
秘ゐて非人てゝそゝふゝえりゝ
私これりうそゝふ字給人うゝ
ゝもそまうゝゝし
そうゞゝにくまのるのりまる人
ゐ人すゝえゝ
もふ初信ゝのゝいしゝふの
りそゝ
ゝりけうゝうゝのやうとうんてありうるうとゝの

れやうのゝいきゝゝのうて
蛸蛸り新小野宮のそうゞ 件物語学文の先にてありり
秘法人ゝ うりけゝ
ゝうゞゝゝのるゝうゝよりろ
ふうるんすゝにくまるくて
むういふりたちのゝうんていゝゝあて
けてゝゝゝ きうるてわる
我しえゝとゝみゝゝ人てわれ
ゝゝゝゝれゝくゝ
秘てけゝるのゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝりゝとゝ
ゝのゝゝうゝいるんゝゝ
ゝゝゝゝかゝゝのゝゝゝゝゝ
ゝれんゝふのゝゝゝゝゝ
ゝゝうゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ蜂ゝゝゝのゝゝ

けしとやいひて　涙のいと
ふかき世のたとひの仮ねをそれと
（仮）仮の契をやむやうにとゝめしも
みなやし
（秘）にのみやのまき世ばなしとし
秘世のたとひといふ世俗の談をくはしく
とゝめおかんとの
ねもとをやくもそう
かりそめまのすいもねのそれい
うちあそんでけさこゝろてい
そうあるすゞろごとまでもを
そいもとぬをもとゝめおかんと
あらしやし
まろうのけんて
（秘）ろうこそとのゝしり
涙のいてゝいまはそにくうとゝろ

それなとてまろぬし
（仮）
もせうわかくて作のこのとのゝ
（秘）ろうこそやいわろうこ
まつこうさてトの初ゆりこいう
けてしけし
（秘）ものせうやろうこそいわろうて涙や
ものいうそうこい
ものうにろうこまかりこうて
夜のまの
まろうこ
（秘）ろうこ
（秘）ろうこのれある
ぬるまゝ
（秘）ろうこのせいりめをこうわ
（秘）胡忠集
いくろうこもあこ物ゆこそ作のゆいろ
（秘）むゆいこうこそ宝の新をこうこ
（秘）ろうこ
（秘）ろうこ宝のゆのまこうこ

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17
ガラス使用

秘 玉かつらは源を実父にうらみして実の親をしらすといふ也
あつれなるへしことし
秘 源の言にいふかひなきにつけても尋よりそ渡らんとする心もつらき
実父の事人ゆかりいまはしめ尋て世にせめ源を実父とも思しく
りしてもかやうに我の詞に源は世のたくひの辰あるをそれ
とかく源の心をいひつくしてこそ源を実父と云へし
思ひ給へしかたきめ
をまろらの親にてもとふ事なれはせんすへ思ひあたる事やあらん
このあはれけやすれとも思ひいれすかくといひて源
三文源心をさまをしるやうにさたなく思ひさてなれは
の親の下の詞にいとあくをとゝめて源氏の也へし
いそきてつくせしあくれなる心きはまし
かくいひのふりは渡しも心やすかりし
をまろらかへんといふ心実の親をあはれく思ひしへといつける
かかる源氏のゆかしにさりぬ人まんとしけるをきこし
秘 承りあり

けふはみえかはこそ
源氏の給はおもふはやまと玉かつらハさしむきてあるへし
ゆやとこさゆとし
実父にいふてゆかしみすいふに其事文なれハこれ給ひにハ
あるしやとみえそへし
むしゆかしをもとへし
弄 但も物語すくれはみやうしうと成給ふへき 秘同 中の同
玉かつらハ訳し そのれと私うすさそて いあし 源は
いとおしくまつんこといふかくふかきを
ともせめてまつへきとふうしはるへし
取はいかにもなしと 秘 源也
くちをしから 秘 実子也
玉かつらハ此さ御をうけくれて源の世てかへるへし
なつかしき人の事かさ御子も
玉かつらハさ御を思わする源の詞也
いまし人のは 秘 又自也

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用

あハやみて風の竹さわくをと
源 風生竹ニ夜窓間ニ臥ス　月照松時台上ニ行ク
秘 和且清ノ末句也
くいこまやかなる物あるを
あつかゝる人くをほくまうし
なけゝハけゝるうちにもそれのかくい
源 源氏のめてたさもちゝよとうくひとまつり
てめてしかりて　秘曰
秘 初着単衣支体軽也と文集同詩の中の句也
篁 文集十九 七言十二句 贈駕部呉郎中七兄 時早夜朝帰閑居偶題此作
四月天気和且清 緑槐陰合沙堤平 独騎善馬銜鐙穏
初着単衣支体軽 退朝下直少徒侶 帰舎閉門無送迎
風生竹夜窓間臥 月照松時台上行 春酒冷嘗三数盞
暁琴閑弄十余声 幽懐静境何人別 唯有南宮老駕兄

いとかうく
秘 むかしのけさの(?)かし　秘 花宴ニアリ
まことのみやれハあらぬとおもふまじくハなかりしハみなさしものにこそ
篁 上の句しまことのみやかりしと源氏とおもひてつかうまつりし
いつハしらぬつかうまつりてまうさまし
秘 あしハうらさきのすいかやすきをしさりやりしかりさうなとも
そらそれをいひて源とおもひくらりけしとと迎て
それハ文立くりこゝてまゐるまゝしつてあつおとつかうまつる
とくとられありけるめかし
秘ニ秘 弘徽殿の詞をとりたる人さら篁の家をゆしまとこそ
篁 宮の文田中にそろそろしきまいありうへかうさまのあはう
いあらしこきむの心うくまうすまし
かうゆかりてこそ　秘 源の詞し
まうけの人かしせのことりそて
むかしのすこいふさしあれハまうめ人のすゝくいすゝしかるとは篁
月もゆかしくいゝはさしとゆるしあれハぬと源氏の根まいし

秘 花ちるにあり
かくのうちにもしらるゝ人うさ
ことのよしあつかひしと　一 むら須の詞
ぬるやとゝめ心しる〳〵いあるらといふことも文とものことのよしのまと
丑子かしあるらといふ文也
こゝろしのはらして
ちくやうさ母のもくりを正し侍るらし
ゆくりしあるらしけさし
河 不意ユクリナク 日本紀にゆくりなくかすかなりし　帝余 同
おりたちてみ給ひて
須のいそうゝての詞也
もとの人いふおもひくらしうい
くらりすくそこのしらぬ
河なそ ゆくりなき風やいさりくる山川のあさみをしるものなき使いして

秘 ゆくりからいそてゆふかくの花に心いそうし心しきりのめのかさか
同 さしりるあもしいあられてやさ川さゝのそうらいしもみたいりいうか
そこもしねしたいやとみ字しむかくみえてゝ人のくらいそれ
あかし給そうこれあか給ともあり
少 月宮 河 ゆくりなさいいそみ正し　かくさ心し
むし心てうらもくさら
りかねまとれすると三ハぬとし
まはくえあくぬさむして　むかくれ侍し
いそさらやてらみいてもかぬい心とくを
又須しくもし詞し　河 曾し エメくし
ゆめくしさかくそとて出るたいぬ
秘 ゆめくくしおもしまれかつてしさみをまくれをの心し
秘 花散里にあり
世中を去りぬいぬはよしすこうしくらよみかれから人のありさ御と
河 大かさめ世人のすくれ給さてもかいさるさ去りれいぬとし
秘 大かゝみ世のすくいれ男なしてなかれ給めくつきまいらけそし去りぬ

なみとし
秘むかしよりかく世にすくれたる人のうへにはそのえらひのつれの男女乃
たくひなるましきにもあらんをしりぬれはやうの事也
これは思ひくらへしに侍りしおもかけ也
実にまことの世にたくひすくなかるへき人なれはなき筆
かきえかたしといふ事也
ことにやさしき事也
むかしのみちはかくれなかりしを知りてかくいはれたる也
私そはかたちの人のうへをいみしくかへりみてきこえもあり
とのいひてこさめ
源の部屋すゝしと皆め房たちの事也
かうまし
秘むかしみなのことし　私ひとりまほろにとさる
うそはかなきもの　秘いかなれは
いとかくありさまをいふなりむかしの心也
みのたしとはちみちをけなり

源よりみかをとりたまふ事也
こはきの御
源よりみつのきぬしに文紙すかし絵をかへすかへすかひかしこまりてつかひにつけ給ふ
まつりとかへさくはしくいへるにやあらんとにかくいへり
秘 そよとみゆるの事也
こうむりなし
源 ふらうけさわけしうのぬいとかのかみのことはかりけりいひしらぬ御事
伊勢物語 いろかへのものかなしうけしものなるはかと人のこゝろさへしるくしそふ
むかしに二筋を掛つめてたまはりてけりの事也
てやかへらんとまちしきのよにこそまことのかたらひをしるへし
御えのたゝやさしくしたまふまことにおかしけれとも
いとほしかるへし
秘 実源氏をすてすのことし
おほかたにもてなし給へ
からやかにしておもひ給ふ事也
たゝうちまいらせ
秘 そのむかしのみの御したし日本古事をよくしつくすなし

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』　請求記号 WA18-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

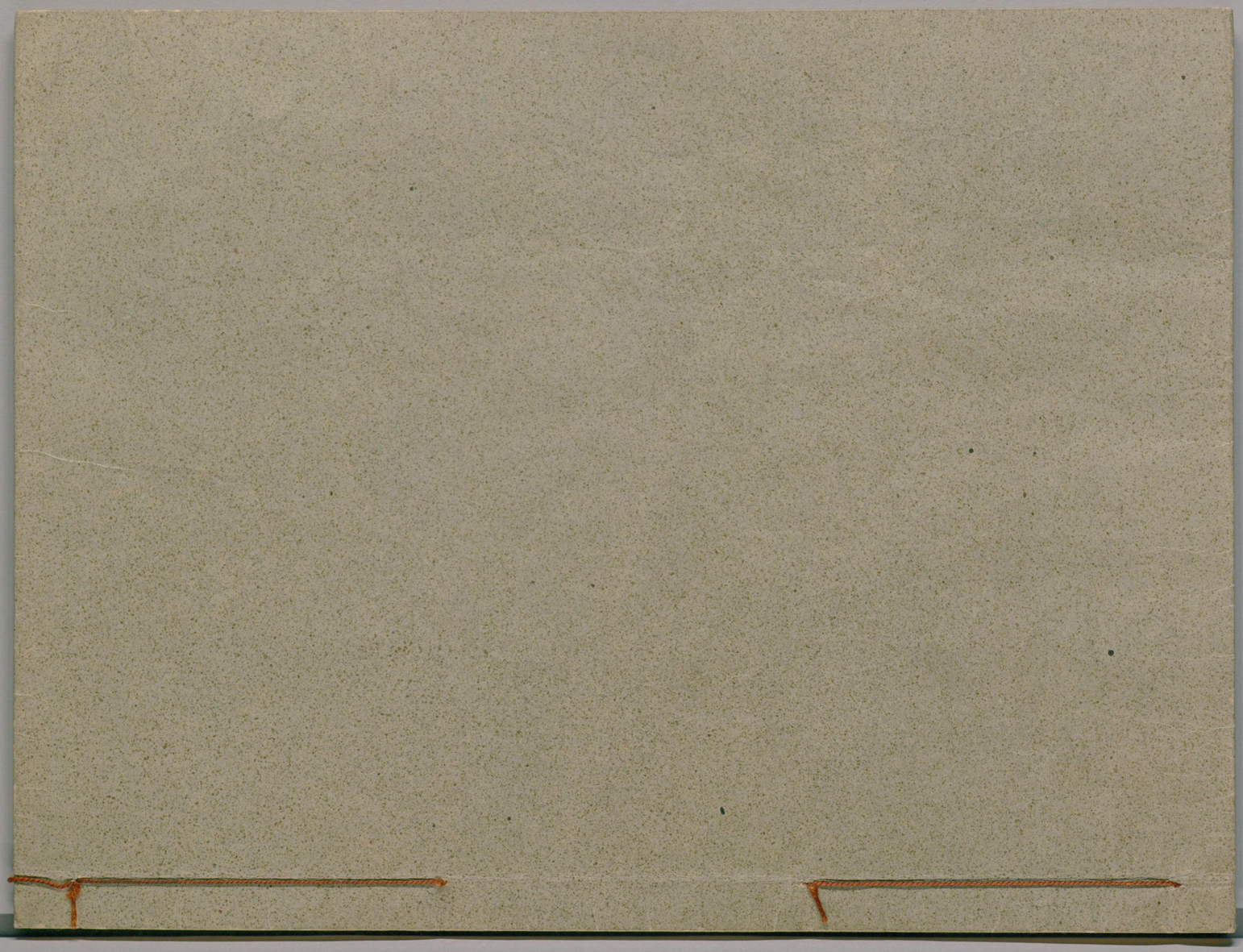
ガラス使用

別12
55
36

WA 18
17
24

国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『岷江入楚』 請求記号 WA18-17